

厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)  
総括研究報告書

小児期からの総合的な健康づくりに関する研究  
主任研究者 村田光範 東京女子医科大学小児科教授

研究要旨：全国に拠点を持つ肥満、高脂血症、高血圧などのコホート調査は成人に至る疫学的な研究を目的としているが、残された研究年度内に高血圧、高脂血症について小児期のガイドラインを作成する。このコホート調査の基本項目と危険因子の関係を検討するために資料を保存し、行政的調査の標準化を行いたい。富山県下で平成元年生まれの95.1%に当たる9674人の追跡調査を行っており、これらの追跡調査により生活習慣の形成過程を明らかにし、これと成長発育期の健康との関係を分析し、行政面でも活用できる幼児期から望ましい生活習慣形成につての資料を提供する。

現在の子どもの運動不足はきわめて深刻である。子どもの身体活動の量的、質的評価法を確立するとともに、日常の生活状況の中で、幼児の運動量の増減に係る因子を分析する。「鬼ごっこ」や「サッカー練習」などを遊びとして普及させ、幼児や学童が自発的に運動の量と質を増加させるための研究を行い、保育所、幼稚園のみならず、家庭も含めて子どもの体力向上に役立つ運動の実践を図る。

従来行ってきた小児期の骨発育の研究により小児期の適正なカルシウム摂取量、運動負荷量を提示する。さらに未熟児、低体重出生児、重症心身障害児などの長期臥床児、やせた子、肥満児などを対象にして骨密度を効果的に増加させる方法を検討する。

小児期からの成人病予防に関する研究  
分担研究者 福渡 靖  
順天堂大学医学部  
教授

#### A. 研究目的

コホート調査結果から、子どもたちが発達していくにつれて殿検査項目にトラッキングがみられるかを明らかにすること、このトラッキングの状況と生活習慣の関係を明らかにし、肥満と関連した成人病(多

くは生活習慣からくると考えられている。)の予防のための健康教育資料を得ること、生活に介入することによってその成果から肥満防止のための保健指導の方向を求めることを目的とした。

#### B. 研究方法

平成4年に設定したコホート集団について、身長、体重、生活習慣、食生活習慣等を調査した。平成10年度は、これまでに得られた調査結果を解析して、トラッキング、生活習慣と身体状況の関係をみた。

#### C. 研究結果

##### 1. トラッキングについて

有坂は、肥満度、血清脂質値等について小学1年→中学1年の6年間のトラッキングを検討し、肥満、脂質異常、動脈硬化指数にトラッキング現象があることを明らかにした。森は、出雲市における21年間にわたる追跡調査から、小学1年・4年・中学1年および高校1年に行った4回の心エコー図を解析し、左房/大動脈径、左室拡張末期径、左室心筋容積係数にトラッキング現象が認められることを明らかにしたが、3年ごとの観察では、トラッキングの程度にかなりの差があり、時にはトラッキングが認められないこともあることがわかった。竹内は、小学5年から中学2年にかけて観



研究要旨:全国に拠点を持つ肥満、高脂血症、高血圧などのコホート調査は成人に至る疫学的な研究を目的にしているが、残された研究年度内に高血圧、高脂血症について小児期のガイドラインを作成する。このコホート調査の基本項目と危険因子の関係を検討するために資料を保存し、行政的調査の標準化を行いたい。富山県下で平成元年生まれの95.1%に当たる9674人の追跡調査を行っており、これらの追跡調査により生活習慣の形成過程を明らかにし、これと成長発育期の健康との関係を分析し、行政面でも活用できる幼児期から望ましい生活習慣形成につての資料を提供する。

現在の子どもの運動不足はきわめて深刻である。子どもの身体活動の量的、質的評価法を確立するとともに、日常の生活状況の中で、幼児の運動量の増減に係する因子を分析する。「鬼ごっこ」や「サッカー練習」などを遊びとして普及させ、幼児や学童が自発的に運動の量と質を増加させるための研究を行い、保育所、幼稚園のみならず、家庭も含めて子どもの体力向上に役立つ運動の実践を図る。

従来行ってきた小児期の骨発育の研究により小児期の適正なカルシウム摂取量、運動負荷量を提示する。さらに未熟児、低体重出生児、重症心身障害児などの長期臥床児、やせた子、肥満児などを対象にして骨密度を効果的に増加させる方法を検討する。